

愛染祭り

10月29日(日)に、管長就任以来初めて、本堂ご本尊お大師様の、向って右脇侍にお祀りされている愛染明王様を讃える法要を勤修させていただき、このたびは前管長宮島阿闍梨を導師に迎え、散華入堂、奠供、唱礼、前後讃附理趣三昧と在家勤行集で、たくさんのご法楽をお捧げすることが出来ました。

愛染明王様はどのような佛様かと言うと、大日如来様の化身した金剛薩埵という菩薩が、優しいお助けでは間にあわない私達に、さらに髪の毛を逆立ててものすごく怒ったお姿の明王様です。

では、もと佛様がいったい何にそこまで怒っているのかと言うと、せっかく私達の中にある良い性質を、もっと伸ばして発揮しなさい、と怒っている親心のお姿です。

終了後は管長、山主法話、お加持、餅投げがあり、天婦羅うどんのお接待をいただき、午後は客殿で仏像仏画教室と、1Fの曼荼羅カフェで仏像仏画展示会もあり、盛りだくさんの一日でした。

管長 三村 慈光

食前「五観ノ偈」(ごかんのげ)

関東で3ヶ月毎に開催される山主講義あり、今回は食前「五観ノ偈」という仏法の言葉で、古来宗派を越えてとても大切にされてきました。

食前「五観ノ偈」は食に対する姿勢を簡潔に5つの言葉で説いたものですが、背景は食だけにとどまらず、私たちの生き方・在り方をも問う、深い仏法の教えが、短い文の中に凝縮されており、ご紹介いたします。食事が前にあるということは、どういうことなのか。

「五観ノ偈」(5つ観察の偈頌)

「一つには 功の多少を計り 彼の来所を量れ」

ご飯を食べる前に、先ず相手のことを。

先ずこの食物は私達のために収穫され命を失い、また農家の方々の育てる労苦があり、流通の皆様、料理の方々のお陰で私達が食べる事ができる事に思いを馳せ、反省と感謝をしましょう。

「二つには 己が徳行の 全か欠か多か減かを付れ」

私達は他者の命を失わせ、自身の命を繋いでいますが、それに見合うだけ他者を利益することが、出来ているだろうか？

またその量はどのくらいしているか、してないかを考えましょう。

「三つには 心を防ぎ過を顕すは 三毒に過ぎず」

こういったことを考えもせず、まっ先に自分の欲望を顕していないだろうか？

「四つには 正しく良薬を事とし 行苦を済わんことを取れ」

薬の服用と同様、用法用量を守りましょう。犠牲の食材ですから。

「五つには 道業を成ぜんが為なり 世法は意に非ず」

素晴らしい道を成就し、他者も素晴らしい道で成就できるよう役立たせていただく、それ以外の欲望のためではありません。

(付)「いただきます」(あなたの命をいただきます)

以上、お唱えは慣れればわずか15秒ほどですので、皆様ぜひお唱えしてみましよう。

山主宮島基行 合掌